The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	五井蘭洲『蘭洲先生老子経講義』翻刻（一）
Author(s)	椛島, 雅弘
Citation	懐徳堂研究. 2018, 9, p. 115-139
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71317
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

五井蘭洲『蘭洲先生老子経講義』翻刻（一）

椛島雅弘

序言

本稿は、大阪府立中之島図書館所蔵『蘭洲先生老子経講義』上篇（第一章〜第三十七章）の翻刻である。以下、書誌情報を提示した上で、本文及び、後に追記されたと思われる注記の翻刻を行う。

現段階では、『蘭洲先生老子経講義』が自筆本か抄本かは明らかになっていない。本稿では推断を避け、以下の関連研究を紹介するに留めておきたい。

平野翠・多治比郁夫「若干の懐徳堂関係資料」（『大阪府立図書館紀要』第二十七号、大阪府立中之島図書館、一九九一年）は、『蘭洲先生老子経講義』が〔五井蘭洲講義筆記〕六十五種の一つであり、これらはすべて、筆者不明ながら同筆であるという。また、『蘭洲先生老子経講義』を含む〔五井蘭洲講義筆記〕六十五種が、昭和二十一年十二月に、大阪市内の古書店から一括購入して、図書館に所蔵されたという経緯をもつことを述べる。

寺門日出男「大阪府立中之島図書館蔵蘭洲遺稿について」（『懐徳堂研究』第六号、懐徳堂研究センター、二〇一五年）は、筆跡や用紙を比較することにより、六十五種のうち、『質疑篇』『蘭洲先生遺稿』『非伊編』は蘭洲自筆本だとする。さらに、これら三文献を含む六十五種も、蘭洲自筆本である可能性が高いと推測する。[1]

一方、湯城吉信氏は、寺門氏の考察について改めて検証作業を行い、『蘭洲先生遺稿』『非伊編』が蘭洲自筆本ではなく抄本であると論じる。[2]

一、書誌情報

・一冊、九十一葉。
・寸法　縦二十六・四センチ、横十八・八センチ。
・無界。毎半葉十二行、一行あたりの字数は不定（およそ十九〜二十一字）。
・本文・注記共に漢字カナ交じり文。また「不教（教えず）トモ」（二章）のような表記が存在する。
・後に追記されたらしき注記が書眉（上部の空欄）に存在する。直接書かれている場合と貼り紙をしてかかれている場合とがある。（いずれも本文と同筆）
・外題は「蘭洲先生老子経講義　全」（書き題簽）、内題は無し。
・印記は「大阪府立図書館蔵書之印」「尚経閣図書記」「船曳氏蔵書」と受入印「大阪府立図書館　157695　昭和廿一年十二月十日」がある[3]。

二、翻刻

凡例

・異体字・旧字体は通行字体に変換した。
・原文には句読点が全くなく、濁点は一部しか存在しないため、適宜、句読点及び仮名の濁点を補った。
・原文は、各章冒頭に『老子』の本文を「〜云〃」と引用した上で、それぞれ注釈を付すという著述スタイルである。本稿では、『老子』の引用箇所には「　」を補った。また、諸注（王弼注・河上公注・林希逸注）や他書の引用箇所にも「　」を補った。
・「〃」「〱」「々」は、カナ・漢字に直した。ただし、『老子』本文を引用する際に用いる「云〃」のみは、見やすさを重視して「云々」と表記し、また原文の表記に倣って字を小さくした。
・本文注記は、章ごとに【注記】と表記した上で翻刻した。

【本文】

老子経　老子一部ノ大意、暫名附イヘバ、道ノ体ハ無、道ノ用ハ無為、其事ハ不争、大抵此三ツヲ不出。老子ノ意、学者ヲ相手ニセズ、五帝三王ヲ相手トシテ説タリ。此意ヲ不知シテ注スユヘ、不啗合注多シ。先五帝三王トモ了簡違ト見テ、自分ノ意ヲ述タリ。河上公注ハ、半分養生ノ事ニアヅカレリ。林希逸ハ、老子ノ術ノ処ハ、皆枕辞譬喩ナリト注シタリ。王弼注ハ、錦ノキレギレノヤ

ウナレドモ、其ヨキ処ハ老子ノ意ヲ得タリ。老子ヨリ養生ノ術ヲ主張スルハ、春秋ヨリ五行災異ヲ推説ト同ジ。老子経ノ中ニ自然ト養生ニカナフ処モアルユヘ符会シテ、タマタマ老子長寿ノ人ユヘ、イヨイヨ符会ス。

上篇

一章

「道可道云々」：形アレバ自然必当ノ名アリ。天ヲ天、東ヲ東ト名ヅク如シ。然ルニ此道ハ、形モナク模様モナシ。虚無ユヘ称号ヲ唱ヘ、云ベキ形ヲサシ名ヅクベキ物ナキユヘ、カヤウニ説タリ。此道、天地不開前ヨリ、天地開ケテ後モ万古不易ユヘ、「常道常名」ト云。「無名天地之始」ハ、コレ天地ノ始、天地ト名ヅクベキ物ナシ。無ヨリ有ヲ生ズヲイヘリ。「有名万物之母」ハ、天地ヨリ又始テ万物生ズユヘカクイヘリ。「母」トサスハ、天地ヲサス。天地ヨリ万物ヲ生ズユヘ「母」トイヘリ。「故常無欲以観其妙」ハ、此「無欲」ト下文ノ「常有欲以観其徼」ノ「有欲」ハ、未発已発心ノ動静ヲ云。七情不感ヲ「無欲」、七情感動スルヲ「有欲」トス。道ノ無ヲ見ントスレバ、先我心ノ七情不感、未発ノトキノ無ニテ、道モ又我如ク無ト見ヘタリ。然レドモ、我未発ノ無心ノトキモ、物ニ感ズレバ忽有ヲ生ズ。道モ又無ナレドモ、忽万物ヲ生ズ。コレ無ヨリ有ヲ生ズト知ル処也。「無欲以観其妙」ノ「妙」ハ、未発ノ無ノトキ、物ニ感ズレバ忽有ヲ生ズヲ「妙」トス。「常有欲以観其徼」ハ、物ニ感ジ、已発シテ有ヲ生ズモ、又ツイニ未発ニカヘリ、無心トナレリ、道ノ万物ヲ生ズモ、其万物ツイニモトノ無ニカヘレリ、コレ我心ノ物ニ感ジ有ヲ生ジテモ、其有ツイニ又モトノ無ニカヘルニテ、道又同ジキヲ知レリ。此処我心ヲ推シテ、道モ又我心ト一致ニテ、天人一致ヲ知ルヲイヘリ。我心ノ未発、物ニ不感トキノ無ニテ道ノ無ヲ知リ、「観其妙」ト云ニ含ム。我心物ニ感ジテ已発ニシテ有ヲ生ズレドモ、其生ズ有ツイニ無ニ帰スニテ、道ノ万物ヲ生ズ万物モ又ツイニ無ニ帰スヲ知ルガ「観其徼」ニ含ム。「徼」ハ、帰宿ノ事也。「此両者云々」：「同出而異名」ハ、「同出」ハ有ト無トツレテ出ルニハアラズ、無ヨリ有ヲ生ズヲ云。同出ノ辞、有モ同ジク無ヨリ出ズト云語意也。ユヘニ、「同謂之玄」トイヘリ。有形無ニ生ジ、有又無ニ帰ス。始終無ナリ。然レドモ、有形ハ有、無形ハ無ユヘ「異名」ト云、玄トバカリ云テハマダ有形ニ疑アリ。ユヘニ「玄之又玄」トイヘリ。有形皆無ヨリ生ズ妙アルユヘ、真無ノ「玄之又玄」ヲ「衆妙之門」トイヘリ。此一段老子一部ノ主意、老子ノ道ノ枢要ヲ説也。○無欲ヲ七情不感未発トシ、有欲ヲ七情感動スル已発ト見ルハ、

七情皆欲ヨリ生ズユヘ也。

二章

「天下皆云々」：心ノ無ヨリ無為ノ自然ヲ行フト無跡無形シテアラハレズ。有形跡アルニヨキ事ナシ。自然ノ無為ニテアリフレタル事ハ、ヨクシテモ世ニアヤシミオドロク事ナシ。コレヲ誠ノ無為ト云。ユヘニ「知美之為美、斯悪已。知善之為善、斯不善已」トイヘリ。コレヲ喩フニ、正宗ノ刀アルユヘ似セアリ。始カラ正宗ノ刀ナキト似スルモノナキ如シ。天地間善アレバ必悪アリ、善バカリハナシ。「故有無相生」以下、皆此意也。「音声相和」ハ、唱ヘバ必ズ和シ、呼ベバ必ズ応ズ、宮アレバ又商アリテ、常ニ一声而已ナラザルヲ云。「是以聖人云々」：此無為自然ヲ行ヘバ、無跡形アラハレズ、万物自然ノ性ニ従フテ、不教トモ教行ハレリ、棄ヲキテモ、人人天性アリテ、知ルホドノ事ハ知リ、行フホドノ事ハ行フユヘニ「行不言之教」也。教ヲ施スハ、却テワル知恵ヲツクル。「万物作焉云々」ハ、無為ニシテ不言之教ヲ行ヘバ、万物春ノ草木ヲ発生スル如ク、各性命ノ自在ヲナシ、伸者ハ伸、屈者ハ屈ミ、外ヨリ手ヲ不入トモ、万物コレニ作レリ。万物コレニ作レドモ、聖人辞退セヌト也。コレヨリ以下、上ハ万物ヲ説、下ハ聖人ニカカレリ。「万物作焉」ハ、万物ノ上ヲ云。「而不辞」ハ、聖人ノ上ニアヅカレリ。「生而不有」ハ、万物各生育ヲ遂レドモ、ソレヲ我功ト不思ヲ云。「生」ハ万物ノ上ヲ云、「不有」ハ聖人ノ上ニアヅカレリ。「為而不恃」ハ、上ヨリ手ヲツケヌユヘ活落自在ノ働ヲナス。然レドモ、我道徳ユヘ如此ト我徳ヲ不恃也。「為」ハ、万物ノ上ヲ云。「不恃」ハ、聖人ノ上ニアヅカレリ。「功成而弗居」ハ、功成テモ其功ヲ我功ト不思ナリ。「功」ハ万物ノ上ヲ云。「不居」ハ聖人ノ上ニアヅカレリ。「夫唯云々、是以不去」：功ニ不居ユヘ、其功千万年モ我ヲ不去ノ意。此段タダ聖王無為ニシテ不教ノ意ヲ説。コレ天下ノ無為ニシテ治ヲ説也。

三章

「不尚賢云々」：天下ノ風俗ヲ正シ、治道ヲナス事、上ニ賢ヲタツトミ用ユルユヘ、天下一統ノ風俗トナリ、賢人ニ人ガ心服シテ、徒党同類アツマリ、家国ヲ争フテ反逆ノサハギトナレリ。不尚賢バ、民ニ争フ事ナシ。難得之貨ヲ不貴ト、民ニ盗ヲナサズ、民ノウラヤマシガルモノヲ始カラ見セザレバ、民コレヲ欲スル心生ゼズ。民ノ乱ルハ、欲心キザスユヘ也。「虚其心、実其腹」ハ、知恵才覚ナキト其心虚無ナリ、思慮分別アレバ其心不虚ウマキヲクワセテ、クツタクサセヌガ「実其腹」也。身分不

相応ノ願望ヲ起サセヌガ「弱其志」也。百姓ハ農業、商人ハ商売ニ骨折サセ、ソレゾレ分際相応ニ骨折ラスガ「強其骨」也。上聖王一人ノ引マハシノ仕方ニテ、天下ハドノヤウニモナル。「常使民云々」：民ヲ無知無欲ニスレバ、知者モ一生非常ヲ企テ手ヲ出ス事ナラズ。如此ナレバ天下安寧ニシテ安穏也。

四章

「道沖而用之云々」：天人一致ノ道ヲ説。有形ハ其量限アリ。江海モ有形ユヘ有限。此道ハ無形虚無ユヘ、天地万物ニ用ヒテ天地万物ヲツミカサネテモ、其量ノミツル事ナシ、ユヘニ「道」ト云、万物コレヲトリテ生ジ、天地コレヨリ始ムヲ見レバ、窺フテ窺ハレヌユヘ、「淵兮云々」トイヘリ。コレ有心ニテハナラズ、無心ユヘ如此。「鋭」ハ、スルドニススム気象ヲ云。何事モモドカシク思フテ気ノススムヲ云。ソレヲオサヘクダキ、カドヲマロクスルヲ「挫其鋭」ト云。人ノ喧嘩ヲトリサユルニ、トモニ血眼ニナリテハ、人ノ喧嘩トリサヘラレヌ如シ。「解其紛」ハ、一一明白ニ埒明ヲ云。糸ノ乱ヲココロヨク解分ル如シ。「和其光」ハ、我徳ノ光、外ニアラハセバ、マバユクシテ人ガヨリツカズ。春ノ日ノ温暖ノ如キヲ「和其光」トイヘリ。「同其塵」ハ、郷ニ入リテハ郷ニ従ヒ、人ニ不異、我意ヲ不立、世俗ト同ジク泥中ノ蓮ト云如キヲ云。「湛兮云々」：此道虚トイヘドモ、「湛兮云々」ニテ形アルニ似タルヤウ也。「吾不知誰之子」ハ、此道何方ヨリ生ズト本ヲ尋レバ本モ始モ見ヘズ、此道天地ニ先ダツユヘ、「誰之子」ト云ヲ「不知」トナリ。「象帝之先」ハ、天帝ノ先祖ニ此道ヲ象ドレリ。天地ヨリ此道ノ先立処ヲ天帝ノ先祖ニ象ドル也。

【注記】

「湛兮」、静貌。有無ノ間ヲ云ナリ。

五章

「天地不仁云々」：天地ハ仁愛ノ心ナク、万物ヲ生出セドモ生出スバカリニテ、棄子ニシテシマフヲ、「為芻狗」ト云。「芻狗」ハ、山川ノ神ヲ祭トキ、草ニテ狗ヲツクリ、祭スメバステテ、人ガ踏ントモドウセウトモカマハズ、ステモノニスルヲ云。万物ノ各己任セ、銘銘ノ勝手ニ任セ、天地ハカマハネバ、寒キユヘ衣服ヲ製シ着、雨露ニウタルユヘ家ヲ建テ住ム。鳥獣モ又同ジ。飢テコノミヲ拾ヒ食シ、雨露ノ為ニ巣ヲツクリ穴ニ住ム。風雨霜露ノメグミモ天地ノ勝手ニヨリタル事ニテ、万物ノ為ニハアラズ。親ニ不似ネバ鬼子ニテ、聖人モ天地ノ不仁ニヨク

似テ同ジク百姓ヲ芻狗トシ、塵芥ノ如ク思ヒ不便ガル心ナシ。然レドモ、百姓親ヲ愛シ兄ヲ敬ス相応ノ心生レツキ、耕田鑿井テ飲食シ、カツテ聖人ノヲカゲヲ不蒙。省刑罰薄税斂モ皆、聖人ノ物好ニテ百姓ノ為ニセズ。天地モ虚無ノ自然、聖人モ又虚無ノ自然ノ一致一体ユヘニ、ツラツラ見レバ天地間ハフイゴノ如シ。フイゴノ中ハ虚無ニシテ風ヲ出ス。フイゴノ中虚無ユヘ風フキツクサズ、動ケバイヨイヨ風ヤマヌ如ク、天地間モ虚無ユヘニ万古生生シテ種ツキズ。陰陽動ケバイヨイヨ生生ス。其内有心ナレバ言行繁多ニテ、其身モ七顛八倒ス。無心ナレバ言寡クシテ窮マル事ナク誤マル事ナシ。ユヘニ中ヲ守ニシカズ。スベテ中ハ虚也。虚ナレバ用ニカナフ。荘子ノ環中ト同ジキ也。

六章

「谷神不死云々」：此段、上ノ「不如守中」ノ「中」ノ一字ヲ承テ説。全ク此段虚無ヲ説也。谷ハ形アリ。谷ノ中ハ無形ユヘ、万物ヲ生ジテ不尽ノ妙アリ。ユヘニ「神」ト云。「谷神」ハ、「無」ノ一字也。此虚無ノ道ハ終ヲ不知ユヘ「不死」ト云。コレ母ノ子ヲ生ズ如ク天地万物ヲ生ズルユヘ「玄牝」ト云。天地モ玄牝ヨリ生ジ、玄牝天地ヲ生ズユヘ「玄牝之門云々」トイヘリ。天地万物コレヨリ生ズヲ見レバ、有形ヤウ也。有形カト目認テ見レバ無形ユヘ、「綿綿」ト云。「綿綿」ハ有ト見ヘテ無ヲ云。此虚無ノ道、万物ニ用ヒテ、カツテ無劬労ユヘ、「用之不勤」ト云。ソレハ虚無自然ノ道ユヘ也。

七章

「天長地久云々」：天地長久、何故ナレバ、天地ノ生ズ万物ヨリ運上モトラズ、タノマレシ事モナシ、天地ハ我身ヲ大事ニカクル事ナシ、天地ハ不自生ユヘ長久也。「故能長生」モスル也。「是以聖人云々」：又聖人天地ニ傚フ。其身粗食スレバ天下中ヨリ美味ヲ持来リ。粗服ヲ好メバ天下中錦繍ヲ持来レリ。イヤト云ド、外ヨリ持来テイヤトイハサズ。「後」トイヒ「外」ト云、「無私」ヲイヘリ。

八章

「上善若水云々」：水ヲ以テ道ヲ喩フ。水ハ万物ノ中ニ有形ドモ無形ニ近シ。水ハ東ニ流セバ東、西ヘソソゲバ西、人ノ汲次第トリ次第ユヘニ、「利万物而不争」也。水ハ卑キニ聚レリ。卑ハ人ノ悪ム処、其卑ニ居ルユヘ、「幾於道」也。潤下ノ形アルダケ、ジキニ道トハイハズ、「幾」ト云ナリ。「居善地」ハ、水ハ卑ニ居、聖人謙退ス。「心善淵」ハ、聡明睿知心ノ深淵不可測ガ水ノ如シ。「与善仁」

ハ、天下ノ物ヲ仁愛ス、水潤下ノ如シ。「言善信」ハ、小水ハ小声、大水ハ大声アリ、声ハ言也。「正善治」ハ、潔白ニ物ヲ洗ヒ清メ、平ラカナルガ、「善治」也。「事善能」ハ、水ハ田ニソソゲバ田ヲ養ヒ、鍋釜ニ入レバ飯ヲカシグ如ク、万事ヲヨクス。「動善時」ハ、潮ノ満天ノ時ニ従フ。「夫唯云々」：水ハ卑ニツキ不逆ヲ云。此段、水ニ比喩スト不知ユヘ、諸注アヤマレリ。此段ノ王注「言人皆云々」トアル「人」ノ字、「水」ノ字ノ誤リ也。此「水」ノ字ヲ「人」トアヤマルユヘ、此本文、注トモスマズ。

九章

「持而盈之云々」：富貴高名其身ニアルガ「持」也。富貴高名モ六七分ニテヨキ加減也。十分ユヘ盈テ溢ル也。十分ユヘ禍コレヨリ生ズ。不盈ヤウニスルガ「不如其已」也。「揣而云々」：サキトガリスグルト刃コボレリ。富貴ノママニススムト又如此害アリ。富貴ニアマレバ却テ守ル事アタハズ。ユヘニ「金玉云々」トイヘリ。「功遂云々」：春功遂レバ夏トナリ、秋ノ功遂レバ冬トナレリ。

十章

「載営魄云々」：「載営魄」ハ、河上公、林希逸、其外古人ノ説魂魄ト見テ、道家ニ以魂載魄ト云意ニ見タリ。尸解ト云テ、生ナガラ天上飛行スト云モ、此語ナドヨリ出タリ。王弼ハ、「営魄」ヲ一ツニ見テ、耳目鼻口ノ形体ヲ一ツニ合セテ「営魄」トシ、形体ノ事ニ見タリ。此説アタレリ。医書ニ「外ヲメグルヲ衛トイヒ、内ヲメグルヲ営」ト云ヨリ、「営」ヲ「魂」ト見タレドモ、「営」ノ字ハ経営トツヅキイトナム事ニテ、イトナムトイヘバ形ヲイトナム事ナレバ、王弼ノ注アタレリ。サテ、形体ハ車ノ如クソレニ乗ル者ハ気、「抱一」ハ道也。此人ノ形体ニ此人ノ気乗リテ、其気ノ運転流通スルモノハ此道ト云意也。営魄ト道ノ一トハナレヌト左右前後無為自然ナラヌ事ナシ。此一句、此章ノ綱領也。アトハ皆条目也。「専気云々」：人事外物物欲ノ為ニ此気散乱ス。専気ニスレバ此気外物物欲ノ為ニ不散乱。赤子専気ナルハ無欲ユヘ也。人ガ赤子ヲ抱ケバ抱カレ、負ヘバ負ハレ、人次第物ニ従フテ不逆ユヘ、「致柔」トイヒ、「能嬰児乎」トイヘリ。如此嬰児ノ如キ胸中ユヘ、胸中ニ利害得失サッパリト打払フタルガ「滌除」也。胸中滌除ナレバ、天下ノ万物ノ理、自然ニウツリ、自然ノ妙ヲ発スユヘ、「玄覧」ト云。玄覧シテ塵ホコリカカル気ヅカヒナキユヘ「無疵乎」トイヘリ。「愛民云々」：「愛民治国」ハスレドモ皆多クハ真ヨリ不出、偽ヨリ出ルユヘ、不本法不長久。其心ノ真ヨリ出テ術ヲ不用ト無為自然ニナレリ。ユヘニ

「能無知乎」ト云。「天門云々」ハ、天地造化、万変天門開闔ニヨレリ。人モ万事運転流行自在モ人ニアリテノ「天門開闔」也。此「開闔」、己ヨリ出テ人ニ先立カヌハ、我意ヨリ出レバ皆有心ニナリテ無為自然ナラズ。物ニ応ズルニ、常ニ物ニ不先立、イツニテモ物ニ順フガ「能為雌」也。先手ヲ出スハ有心ノ事也。為雌サザレバ無心ニ順フ事ナラズ。「明白云々」：日月無不至如ク、其聡明四方八方ニ無不達ガ「明白四達」也。明白四達ノ知アレバ、事ヲ好ミ事ヲ始ムガ病也。然ルニ其知アリナガラ手ヲツカネ、天下万物ノアリサマ見テ居ルバカリニテ、自然ノママニ成長スルモノハ成長サセ、生ズモノハ生ゼサセ、養フモノハ養ヒ、皆自然ニマカスユヘ、「生之畜之」ト云也。サテ、其身ニアリテハ、此無為自然ノ徳アルユヘ、生之畜之トモ我徳トモ不思功トモタノマズ。生ジテモ自然ニ任セ、畜テモ自然次第ニテ我手ヲツケズ。如此ナレバ、無心自然ノ大徳ユヘ、「玄徳」ト云。此一段、脩己治人ノ玄徳ヲ説リ。

【注記】

「玄覧」、玄妙ノ見識ナリ。万有ヲハラヒ除キ、玄妙ノ眼ヲ以テ時変ヲ見ルヲ云ナリ。

十一章

「三十輻云々」：車ノ三十輻一ツノ轂ニアリ。此轂ニ三十輻ヲウクル。空虚ノ穴ノハメ処ナキト此三十輻ヲウクルモノナク、車用ヲナサズ。三十輻ヲウケ車ノ用ヲナスハ、此轂ノ虚無ノ穴一ツニアリ。「埏埴云々」：茶碗モ中ガ虚無ユヘ物ガウケ入レラレテ有器之用也。「鑿戸牖云々」：ヌリゴメニシテハ、アカリ入ラズ。一室ニ戸牖ノ空虚アルユヘ光ヲ入レウケテ「有室之用」也。然レバ万物万事有用ノ為利ハ、皆無ノ用アルニヨレリ。此用ノ利ハ何ゾ無ノハタラキガ有ノ用トナレリ。ユヘニ「有之以云々」トイヘリ。此無ヲ煩ラハス者ハ物欲ノ一ツニアリ、ユヘニ下文ニ

【注記】

「埏埴（ネヤスハニヲ）」、土ヲコネル事ナリ。

十二章

「五色云々」：見ルガ目ノ毒、聞ガ耳ノ毒、喰フハ口ノ毒、ヱヨウノナグサミニ溺レバ人心ニ狂ヲ発ス也。「難得之貨云々」：金銀珠玉ヲ貪ルヨリ不仁不義ノ行ヲナス。人ノ行ヲ妨グハ難得之貨ヲ欲スヨリナリ。コレラ皆上一人ノ聖王ノ徳化ニヨレリ、ユヘニ「是以云々」也。「為腹」ハ、

人人相応ニ沢山ニ五穀ヲクハセ養フテ、目ノ毒耳ノ毒ヲ見セズキカサズ、「馳騁云々」ノヱヨウノ道具ヲ近ヅケズ。其身モ為腹テ物ニ役セラレヌヤウニ、不為目人モ又如此ス。「為腹」ハ質朴ヲ云、「為目」ハ華美ヲイヘリ。如此天下ノ上ニ立人ハ無欲無心ナラネバ立タレズ。ユヘニ下ノ章ニ

十三章

「寵辱云々」：「寵辱若驚」ハ富貴不淫貧賎不移ノ意。「貴大患若身」ノ一句キコヘニクシ。河上公ハ「若」ノ字ヲ「至」トカヘ、「貴」ノ字ヲ「恐」ト見タリ。此注スマズ。「若」ノ字ヲシタガフト見テ「貴ニム大患若フヲ一レ身ニ」トヨムベシ。「何謂寵辱若驚」ノ下ニ脱字アリ。「寵為上、辱為下」、河上公ニカヤウニ見タリ。此意、高位高官、富貴ヲ得タガ「寵」ユヘ、「為上」トイヘリ。官位富貴ヲ失ヒ下ニ降ルガ「辱」ユヘニ「為下」ト云。コレ官位富貴ヲ得テハ、人人喜ブベキハヅヲ不喜シテ若驚、得マジキヲ得タヤウニ思フ意也。「驚」ハ喜反也。官位富貴ヲ失フ辱ヲ得テハ人人憂ヘ恐ルニ、憂ヘオソレズ、又「若驚」、此処ノ「驚」ハ、何トモ不思意也。然レバ寵辱一ノ如シト云意也。其主タルハ寵アリテ若驚ナリ。辱アリテ若驚ハ客也。ユヘニ「得之若驚」ガ老子ノ主意也。「失之若驚」ハ驚ウチ也。大意、其身浮沈昇降スレドモ、寵禄ヲ得テモ、得マジキヲ得タヤウニ思フテ若驚、又失フモ若驚、スベテ寵辱ノ為ニ一点心ヲ不動、貧富ヲ見テ一ツトシタル意。「吾所以云々」：大患アリテ患ヲ招クハ、タダ一ツノ此身アルカラ也。有身ト思フカラ患生ズ也。我身ノ欲ヲキハメ情ニ任スヨリ不思大患ヲ招ケリ。然レバ我身アルガ為也。我身ナケレバ患ノ出処ナシ。我身ヲサツパリトトリノケテハ日用万事トモ天機自然ノ流行発見ト云外ナキユヘ我身ノ患出ドコロナシ。無身トスルガ却テ我身ヲ大切ニ愛シ貴ムノ至リ也。ユヘニ「及吾無身、吾何有大患」トイヘリ。如此ナルユヘニ「貴以身云々」ニテ、天下ノ大富貴モ我身ニカヘズ有身ト思フカラ、天下ノ富貴ノ為奢リ溺レテ此身ニ患生ジ、ツイニ亡ス。天下ノ富貴ニマミレテモ七珍万宝ニ不溺人ニテナキト寄天下ラレズ。天下ガ大切カ、我身ガ大切カトイヘバ、我身コソ大切ナレ。ソレユヘ天下ハ何トモ不思人ハ、イツマデモ此天下ヲアヅケテモ丈夫ニシテ気ヅカヒナシト也。ユヘニ「愛以身云々」トイヘリ。此二句「以レ身貴三於為二ヨリモ天下一」「以レ身愛三於為二ヨリモ天下一」ト書セネバ後世ニテハキコヘズ。古文ユヘ本文ノ如ク書ス。此後世ノ文字ノ用ヒヤウノ意ニ解スベシ。○「貴大患若身」ハ、「若」ハシタガフトヨムトキ、シタガフハ両方ニカカレリタル文字

ニテ、有身ハ大患来リ、無身ト大患不来、此道理ヲワキマフヲ「貴ム」ト云意ナラネバ、「貴」ノ字スマズ。此説ヨリモ「若」ノ字ヲ「無」ノ字ノ誤ト見ル方、端的也。其トキハ、無身ヲ貴ムト云意也。身ナキト大患不来ヲ「貴ム」ト云意ニテ近シ。

十四章

「視之不見云々」：此章全ク道ノ本体ヲ説。此道ヲ視テミヘヌハ無形ユヘ也。ユヘニ「夷」ト云也。無形ユヘ、ヨク天地万物ノ形ヲ生ズ。此道ヲ聞テモ可聞声ナキユヘ、名ヅケテ「希」ト云。ユヘニヨク天下ノ声ヲ生ズ。此道ヲトラヘテモトラヘラレヌユヘ、名ヅケテ「微」ト云。ヨツテヨク天下ノ物ヲ生ズ。物皆無ニヨリテ天下万物ノ実物ヲ生ズ。全ク無ノ一字ヲ説。天地間右ヨリ名ヅケテハ東トイヒ、左ヨリハ西、前ヨリハ南、後ヨリハ北ト云如ク、実ハ皆一ツ也。此三者モ何故如此分テ名ヅクトイヘバ、分テ名ヅクイハレハ不可致詰ニテ、モト一ツユヘ、何故ワケテ名付ト云事イハレズ。実ハ一ニテ此ヨリ名付ト彼ヨリ名付トノ違而已也。有形有声テハ其用ナシ。此道、上ニアリテハ如日月明ナラズ、下ニアルヲ見テハ土地ノ如ククラカラズ。不明不暗ユヘ天ヲカカゲテヨク明、地ニ下シテクラカラシム。此道、無形無声ユヘ、「縄縄不可名」也。何方ヨリ見テモ、ツマリノ帰宿如何ト云ニ、道ノ本体無物ト云外ナキユヘ、「復帰於無物」ト云。無形トイヘバ万形アリ、無物トイヘバ万物備ハルユヘ、「是謂無状之状云々」ト云也。有トモ見ヘズ、無トモ見ヘズ、電ヲトラフ如ク、トラヘラレヌユヘ、其妙ヲサシテ「惚恍」ト云。首ト尾アル者ハ形アリ、無形ユヘ天地不始前ヨリ首アリ、終ヲイカガトイヘバ、天地終レドモ此道ノ終見ヘズ。天地ニ先ダチテ首アリ、天地ニ後レテ終アリ。此道無形ノ形、無象ノ象ユヘ、古ヘモ一年四時二十八節、今モ又如此。ユヘニ「執古之道云々」ハ、此道無ユヘ也。此道ノ無為自然ヲ得タル人ハ、古ヘノ無ヲトツテ今ノ有ヲオサム。如此ナレバ人情風俗質朴ニシテ、世ヲヨク治ム。道紀ハ道ノ引ククリノ事也。コレヨリ道ノ万事分ルユヘ「是謂道紀」トイヘリ。

【注記】

「此三者不可致詰」、以上ノ三ツノモノ、其落着、ツイニ皆微ノ同義ニ帰シ、其異ヲ詰リ問フ事ヲ用ヒズ。

「縄縄」ハ、バツトシテトラヘ処ナキヲ云。

十五章

「古之善為士者云々」：此段、人ノ道ヲ説也。無為自然ノ

徳ヲ得タ人ガ「善為士者」也。鏡モ内ニ一物形アレバ万物ウツラズ。人心モ無形、無ユヘ自然ニ万事ニ達ス自在アリ。コレヲ「微妙云々」ト云。此人ノ徳ノ本体如何ト云ニ推ハカラレズ。此人ノ徳ヲ強テ推量シテ先イハバ、此人ノ行事ヲナス事不得已ヨリ出ル。「豫兮云々」ノ如クニ動クユヘ、其事皆理ノ必然ニアタレリ。「豫」ハ、見合セタメラフ貌、冬川ヲ渡ラントシ、又渡ルマジキトタメラフ不得已ノ貌也。此人ノ心ハ自是トシ己ヲホコリテ物ヲタヤスク不決、四方隣国ヲ敵トシテハサマレタ小国ノ如ク、常ニ不油断ツツシムヲ云。ユヘニ「猶兮云々」トイヘリ。如此ナレバ其威儀如賓客ユヘ「儼兮云々」トイヘリ。「渙兮」ハ打トケ見ユル意。ユヘニ「若氷之将釈」ト云也。威儀容貌、日用万事、「敦兮云々」ニテ質朴也。質朴ノ人ハ、胸中狭キニ却テ胸開ケ空シキ事「曠兮其若谷」也。「混兮其若濁」ハ、水至テ清ケレバ魚スマヌユヘ「其気象混兮云々」也。以上皆実体ヲ形容ナラヌユヘ皆「如」「如」(4)トイヘリ。濁水モ静ムレバ段段清クナレリ。我居所ニ安ンジ、久シ安ンズル者ハ、イツキテ不動ニ事ニアタリ、動カズト段段動キ働クユヘ、「孰能云々」トイヘリ。上ハ動ヨリ静ヲ説キ、下ハ静ヨリ動ニ及ブ、動静清濁一致ノ徳也。此道ヲ得テ大徳アレバ、常ニ六七分ニ止リ盈ル事ヲセズ。六七分ノ処ニテ守リ止ルユヘ、千歳如一日ト云如ク、足レルヲ知ルユヘ其場ニスハリ、イツマデモツイヘヤブル事ナクシテ不衰也。天地万古不易ニ如不動ガ「蔽不新成」也。「蔽」ハ、久シクシテフルビル事イツモ六七分ニテトマルユヘニ、イツニテモ常ニ新也。コレ端的ノ意。

【注記】
「猶兮」ハ、恐レ猶予スルナリ。「敦兮」ハ厚キ也。

十六章

「致虚極云々」:天人ヲ合セ云也。虚無ノ至極ヲキハメ至徳ト云如キユヘ如此説リ。有ナルユヘ常ニサハグ、虚ナレバ常ニ静也。動ハ形ニツキ、静ハ無ニツク。静ノ養ニテナキト天人万物篤キ徳ヲ不得、静ノ養ニテ篤キ徳ヲ得ルヨリ天機自在ノ妙ヲナス。天地間モ、冬ノ間静ヲ守リテ篤キユヘ春ニナリ発達スル如シ。守静徳アル身ニテ万物並作ヲツラツラ見ルガ「吾以観復」也。万物並作ハ天地間ノ万物生長発動スルナリ。「吾以観復」ト「夫物芸芸云々」ハ、万物各其根ニ復帰シテ、モトヘカヘレバ華モ葉モナク悉ク皆其根ニカヘレリ。コレ無ハ天地万物ノ本ユヘ「根」ト云。根ニハヘレバ無声シテ静ナルユヘ「静」ト云。根ニカヘリ無ニ帰スガ天命ニカヘリタルト云モノ

ユヘ「復命」ト云。天命ニカヘリタルハ又即無ニ帰ル事ユヘ「曰常」トイヘリ。「常」ハ無ト見ルベシ。首章ノ「道可道非常道。名可名非常名」ト云「常」モ無ノ意ニ見ルベシ。人ノ万事モ又如此。其用終レバモトノ無トナレリ。コレ又「復帰其根」也。無ノ徳ヲ得レバ聡明ニシテ「知常」也。「知常」ト天下ノ理明ラカニシテ、理ニ不戻ユヘニ「明」ナリ。「不知常」ハ自然ニ背クユヘ「妄作凶」ナリ。有限量者ハ皆有也。有形ハ広大トイヘドモ量ニキハマリアリ。道ハ無ニテ無形ユヘ天下ノ物ヲイレテ胸中ニ量ナク、万物ヲ容ルハ心ニ無私也。コレ「容乃公」也。公ニテコソ大ニアマネク治ム王者トナレリ。王ハ依怙見贔（ママ）負ナシ。公ニテナケレバ王トハイハレズ。如此ナレバ天ト一也。天即道也。此道ハ無形ユヘホド限リ知レズ。ユヘニ無窮也。此心ナルユヘ利害ニオボレタリ、クラマサルルナリ。此無ノ徳アレバ利害ノ煩ナキユヘ、一生道ノ自然ニ不背ユヘ、「没身不殆」ト云也。○有ニハ変化アリ、無ニハ無変化ユヘニ、無ハ万古不易ニシテ常久ナルユヘ、「常」ノ字ヲ無ノ字ニ見タリ。

【注記】

「芸芸」ハ、キザシノカスカナル事、草ノ芽出ノ如シ。

十七章

「大（ママ）上云々」：此二三段治道ヲ論ズ。無為清浄ノ徳アル人ノ天下ノ功業ハ、下民此功業アルヲ不知事、人ノ天地ノ徳アルヲ不知如ク、日出テ起、日入テ息、耕田テ食シ、鑿井テ飲如シ。上ニ王者アルヲ知ル事ナク、上ノ仁恵恩沢ヲカツテカタジケナシト思ハズ、三皇五帝ノ世ノ如キヲ云。「其次親而誉之」ハ、湯武三代ノ事業ノ如キヲ云。「其次畏之」ハ、賞罰ニテ民ヲ治ム五覇ノ類ノ如シ。「其次侮之」ハ、賞罰不正ユヘ民不畏也。コレ賞罰法度不信ナルガユヘ也。ユヘニ「信不足焉云々」ト云。天下ヲ治ム事業ノ第一、賞罰号令ノ言ニアリ。ユヘニ一言云出スモ大切ニ云ユヘニ「悠兮其貴言」ト云也。如此ナレバ功成事遂テモ民ヨリ上ノ恩ト不思、マダ民ヨリ年貢ハカリテ王者ヲ養フト思フホドユヘ、「謂我自然」也。

【注記】

「悠兮」、長貌。心ノソレニ長ク安ンズルヲ云意。

十八章

「大道廃云々」：大道ノトキハ、天下中仁義ト不知シテ皆仁義ヲ行フユヘニ、仁義ヲ唱ヘ不貴也。大道廃レバ、天下ニ仁義不行者アルユヘ、始テ人君仁義ヲカカゲテ仁義

ヲ以テ天下ヲ心服サス。コレ仁義ノ道天下ニクラムユヘ也。白日ニ灯ヲ不愛、夜ニナリテ始テ灯ヲ愛ス如シ。「恵智出有大偽」ハ、人君知謀ヲ以テ天下ヲ治ムユヘ、下民ニ邪智ヲ用ユル者出タリ。コレヲ「有大偽」ト云。国ヲ掠メ天下ヲ奪ヲ云ユヘニ「大」ノ字ヲツケタリ。「六親不和云々」：六親和スレバ天下中孝慈ユヘ孝慈ヲ称ス者ナシ。六親不和ユヘ孝慈顕ハレリ。国家治平ナレバ忠臣何方ニアリト知ル者ナシ。国家昏乱ユヘ忠臣アラハレリ。

十九章

「絶聖云々」：天下ヲ太平ニ治ント思ハバ、天下全体ノ風ヲ質朴ニナシ華美ノ道具ヲトリノクレバ、不労シテ天下無事也。天下ヲサハガス害ハ此三ツ也。ココガ異端トモイヒ、又老子独歩シテ主意ヲアラハス処ナリ。聖智ノ道ヲ学ブヨリ却テ天下ノ民ニワル知恵ツク。コレヲトリノクレバ、民自然ニ偽ノ心ナキユヘ、人皆其業ニ安ンジ所ヲ得ルユヘ、「民利百倍」ト云。上ハ仁義ヲ教ヘ下ハ仁義ヲ学ブユヘ、孝慈モ形バカリノ偽ニナリ、本心ノ誠ナシ。コレヲ去ノクレバ、人民天性自然孝慈ノ誠篤厚ニナレリ。孝慈ノ仕方ノリツハ、作法ハナケレドモ、内ノ本心厚クナレリ。天下中ノ巧ノ道具、名人ノ作、華美ノ道具、金銀珠玉ノ利ヲ棄レバ盗賊ト云トモ盗ム物ナキユヘ、天下ニ盗賊ナシ。此三者ヲトリノクルバカリニテハ、人民モ俄ニ力ヲオトシ不心服、其入レ替ナケレバナラズ。此三者ナキト人民文不足ト云テ不心服ユヘニ、其カヘ物ニ「見素抱樸云々」也。如此ノカヘ物アレバ、此三者ヲトリノケテモ、人民有所属ヲ知リ其心帰宿ス。

二十章

「絶学云々」：聖智仁義ヲ貴ム学アルユヘ、天下ノ乱ノ本トナレリ。天下中ニ学ヲトリアゲテ知ラセヌト、ヨク天下治レリ。学ハ何ゾ。タダ善ノ一字也。然レドモ、唯ト阿トノ違僅ノ如ク、善ト悪ノ違又ワヅカ也。学ブハ善ナレドモ善バカリニアラズ。悪モ知ラネバ其善不明、悪ヲ知ラネバ善ガ知レヌユヘニ、文武ノ道ヲ学ベバ桀紂ノ酒池肉林ヲシラネバナラズ、孝ヲ学ベバ不孝ヲ知ラネバナラズ、ユヘニ善ヲ学ベバ悪モ又導クユヘニ、悪ハ勿論善モ不知バ、始ヨリ天下ノ人民本末天性ノママナリ。飛ヲ不教トモ鳥ハ飛ノ性アル如ク、況人ノ天性ユヘ、人ノ畏ル処ハ不畏ニハ不居也。相応ニ人ノ道ヲ行ヒ守ラヌ事ナシ。「荒兮云々」：コレ其験也。仁義ノ教アルユヘ天下華美、偽ニ流レリ。上古ノ風、善悪是非不兆シテ、一日ニテモ五ツ時分ガ四ツ時ノ如シ。マダ昼ニナラヌガ「未央」也。未央ハ天下中質朴清浄無欲ニシテ不相欺。「衆人云々」：

「衆人」ハ、其心情欲ニウカレシツコキヲ如此説リ。「我独云々」：「我」ハ、衆トウラハラニテ素湯ニ雪ヲトクト云如キガ「泊兮」也。其心無欲、七情未兆、心ニ善悪不動、小児ノ心ノ如ク無欲也。ソレユヘニ大海ニ浮ム舟ノ如ク、西トナリトモ東トナリトモ風次第ニテ願フ事ナク、主トシ趣ク処ナキガ「儽儽兮云々」也。「衆人皆云々」：「衆人」ハ情欲心ニ不厭、胸ニ一ツハイツマレリ。ユヘニ「有余」ト云。「我独」コレナキガ「若遺」也。衆人ノ欲シ貪ヲ不知、情欲一点ナキユヘ、「愚人之心也」ト云。其心ニ善悪不分、千変万化、此心ニ含ミコモルガ「沌沌兮」也。俗人ハ利口発明寸分ノガサヌ「昭昭」也。我独一点無私欲ガ「若昏」也。俗人ハ厘毛モ不見違ガ「察察」也。我独平生不言シテ知ノ深徳ノ測ラレヌヲ「澹兮若海」ト云ユヘニ、何一ツ足手纏ナキガ「飂兮云々」也。衆人ハ手際ナル働シテ立身スルユヘ「皆有以」ト云。我ハ何一ツセズ、人ノ如キ欲ヲ不願ヲ「頑似鄙」ト云。ソレハ何故ゾ。タダ一ツノ「貴食母」為ナリ。万物ヲ生ゼシムルハ虚無ユヘ、虚無ノ道ヲサシテ「母」ト云。虚無ノ道ニ従フハ万物ヲ生ズ母ノ道ヲ養フ工夫也。衆人ハ此虚無ニ戻ルユヘ母ノ道ヲ害ス也。

【注記】

「唯之与阿」ハ、唯ハハイト答フ、「阿」ハアイト答フナリ。

「荒兮」、荒乱貌。スサムナリ。物欲ニスサミ乱ルヲ云ナリ。

「熙熙」ハ、タノシム事ナリ。「如春登台」モ楽ミヨロコブ也。私欲ノ中ニフケリ喜ブナリ。

「儽儽」ハ、ウツカリトスル事ナリ。

「沌沌兮」ハ、形ナキ意。

「悶悶」ハ不言貌。

「飂兮」ハ、風ニフキ散リフキアゲラルル貌。

「澹兮」、静深貌。無欲ナルヲ云ナリ。

二十一章

「孔徳之容云々」：林注ハ「孔」ノ字甚ト見テ聖徳ノ事トス。河上公ハ大徳ト見タリ。王弼ハ「孔」ヲ空ノ訓詁トシテ虚無ノ徳ヲサシテ「孔徳」ト云。王弼説アタレリ。無心ノ徳ヲ得タ人ノ徳ノ本体ハ、可名可見、言ニ立テ説ガタシ。タダ可見モノハ行ノ実徳ユヘ「孔徳之容」ト云。心ノ体虚無ユヘ、自然ノ道ニ従フ。自然ノ道行ハルガ即「孔徳之容」也。其虚無自然ノ道イカガトイヘバ、道ハ無形象ユヘ、「惚兮恍兮云々」ト云。「惚」「恍」ハ、道ノ有ト見ヘテ又ナキ形容ヲイヘリ。然レバ此道断無カトイヘバ、天地ノ形象、此惚恍ノ虚無ヨリ生ズユヘ、「其中有象」

ト云。又凡天下ノ有形万物、皆此惚恍ノ虚無ヨリ生ズユヘ、「其中有物」ト云。「其中」ト云ハ、二ツトモ此惚恍、虚無ノ道ヨリ生ズヲ云也。「窈兮冥兮云々」：「窈」「冥」ハ、道ノ深遠ヲ云。然レドモ万象万物ノ精粋、皆此虚無深遠ヨリ出ヅ。此精ハ精心トモ精気トモ分ラレネドモ、老荘ノ書ニ理気ノ分レナシ、タダ道ノ奥妙ヲ精ト云。其精イカナルモノトイヘバ、天真自然ニテ物ノ偽ヲ不交、道ノ本体正真ユヘ、「其精甚真」トイヘリ。道ハ昔ヨリ万古不易。柳ハ緑、華ハ紅トキハマリタル約束不違道ユヘ、「其中有信」ト云。此道ハ古ヘモアリ、今モ又此道ヨリ始リ生生スユヘニ、「自古及今云々」トイヘリ。此道トサスハ虚無自然也。其証拠ハ「以閲衆甫」ニテ、万物ノ始何ヨリ生ズトイヘバ、皆全ク無ヨリ生ズ。何ヲ以テコレヲ知ルトナレバ、上文ノ「忽兮恍兮云々」「窈兮冥兮云々」「其精甚真」ニテ知レリト也。ソレユヘ、「吾何以云々」ト云。「以此」ノ「此」ハ上文ヲサス。

二十二章

「曲則全云々」：此段、尊柔不争道ヲ説也。我意ヲ立レバ其事ヤブレ、其身過アリテ不全、ユヘニ物ニ従ヒ人ニ従フテ向フ次第ニシテ、自然ヲ行ヒユケバ、此身全キ也。「枉則直」ハ、人ニ負テ我是ヲ立テネバ、ヒトリアガリ立ヲ云。「窪則盈」ハ、我身ヲ卑下シテ身ヲ引下レバ「其徳盈」也。「敝則新」ハ、「敝」ハ物ノフルビ破レタ事、フルビテヤクニタタヌ者ト人ガ云ヒテモ、我是ヲ不立自然ニ従ヒ居レバ、自然ニ人カラモ世カラモ用ヒテ、世ノ人ニ先立テ新ニナレリ。「少則得云々」：望ム事多ケレバ得ラレズ、身分相応ニ少シノ望スレバ得ラル。望過分ニテハ得ラレヌカラ、色色惑ヒウロタヘツクヲ云。「是以云々」：コレ少ノ至也。タダ一ツノ無ノ道ヲ抱キテ、天下ノ準則トナレリ。「抱一」ノ徳イカガトイヘバ、「不自見云々」：一人ノ目ニテ天下万事ハ見ラレズ。人ノ目ヲ以テ見ルユヘ「明」也。我ヲ是トセズ、人ノ是ヲトルユヘ却テ世ニアラハレリ。「不自矜故長」ハ、ミヅカラ不矜ユヘ功名長キナリ。「夫惟不争云々」：人ニ負テ不争ユヘ天下ニ悪ミイム人ナシ。コレ「天下莫能与之争」也。「古之所謂云々」：如此ナレバ其身ヲ全フシテ其身ヲ道ニカヘスト也。

二十三章

「希言自然」：王弼ハ此書上段ニ「希」ノ字ヲバ無ノ事ニ説ユヘ無ノ意ニ見テ、無心ノ人ノ言ハ自然ト云意ニ見レドモ、ソレニテハ下文ノ「信不足云々」ニカケアハズ。林注ハ天人ノ道ヲ一二言ニテ云意、言寡ク説ケバ自然ト

ナラデハイハレヌト見タリ。又コレニテハ「飄風云々」ニカケアハズ。河上公ハ「希、愛也」ト見ルハ、「愛」ハオシム意也。河上公ノ説トルベキ也。天下ヲ治ムハ号令ノ言ニアリ。言多ケレバ過ルノアヤマチアリ、言寡ケレバ自然ニカナフト云意、言ノ希ト云ガ言ノ道ノ自然ト云意ニテ、又自然ヨリ出ル言ハ、オノヅカラ少シト云モ同ジ。コレガ即天道必定ノ道理也。其証拠ハ「故飄風云々」ニテ、風雨ハ天地ノ言、飄風、驟雨ハ長クツヅカズ、コレ天地ノ多言也。「故従事於道者云々」：老荘ノ書ハ不言ノ教ト云。此段、治道ヲ説。事事道ニ従フテ無ノ道ヲ得タ人ハ、千差万別不道事ナキユヘ、「同於道」ト云。此人一ツトシテ不徳事ナキユヘ、又「同於徳」ト云也。此裏ニテ道ト徳ヲ失フ人ハ、事事アヤマタヌ事ナシ、ユヘニ「同於失」ト云。堯舜ハ千差万別皆道ト徳、桀紂ハ千差万別皆過失ノ如シ。「同於道者云々」：道ニ同ジキ人ガ人ノ上ニ立テバ、民皆道ニ起リ有道ノ世トナレリ。「同於徳者」、又如此、天下有徳ノ世トナレリ。「同於失者」ハ天下悪者ダラケ、民上ニ従フテ悪ヲ楽ムヲ「失亦楽得之」トイヘリ。人君ハ声、万民ハ響ユヘニ、上ノ人信不足バ、言ヲ以テ戒テモ下ウケトリ信ゼズ。コレヲ「信不足焉云々」ト云。ユヘニ「希言自然」也。

二十四章

「企者不立」：手前ヲ不見、向フバカリヲ見テ進メバ足ツマ立テネバナラズ、堅固ニ立事ナラズ。過分ノ願望ニススミ跡ヲ不見ガ「企者不立」ト同ジ。「跨者不行」ハ、左モ右モトラント両方ヲカケマタガレバ、両方トモトリハヅス事、「跨者不行」ガ如シ。「自見者云々」：人ノ目ヲ不用ハ不明、我ヲ是トシテ人ノ是ヲ不取ハ「不彰」。以下同例也。コレ無心ナレバ此病ナシ。皆コレ有心ノ病也。コレラヲ道ニ於テ論ズレバ「余食贅行」「余食贅行」ト也。コレハイラヌアマリ物ト云ガ「余食贅行」也。上文ノトホリナレバ、天下中ニニクマルル、ソレユヘ有道ノ者ハココニ不居也。ユヘニ「物或悪之云々」トイヘリ。

【注記】

「余食贅行」ハ、イラヌアマリモノヲ云。「余食」ハ、腹ニ充ルマデ食シテ残リタルモノ、「贅行」ハ、無用ノ行也。

二十五章

「有物混成云々」：此段、道ヲ論ズ。可見形ナク、可聞声モナク、仁義トモ天地トモ陰陽トモ何トモ不分、一トコメニ全備成就セル物アリテ、シカモ先天テ天地不開前ヨリ此物生ズユヘ、「有物混成云々」ト云。全ク無ノ本体

ヲ説事也。サテ、此無ノ本体ニ有声有形ヤト見レバ、声モナク形モナク「寂兮寥兮」ナリ。先天地ジテ生ジ、天地終リ天地改レドモ、此物不終不改、万古不易ユヘ、「独立不改」ト云。天地ハ陰陽五行変化シテ改マレリ。無ノ本体ハ無形ユヘ、今日モ明日モ改ル事ナク、タトヘ天地終リテモ此無ノ道ハ万古不改ユヘ、「独立不改」ト云。「周行而云々」：此無ノ道ハ、柳ハ緑、華ハ紅ト云ニ至ルマデ一物一物ニ普クメグリ、其上無形ユヘ、マロビコケル事ナキユヘニ、「周行不殆」ト云。天下ノ物、此無ノ道ヨリ生ズルユヘ、「可以為天下母」ト云。サテ、此無ノ本体ノ名ハ如何ト云ニ、炎上ノ形アルユヘ火ト名ヅケ、流ル形アルユヘ水ト云。名アレドモ此無ノ本体バカリハ無形ユヘ可名名ナシ。ユヘニ「吾不知其名」ト云。然レドモ称号ナキト此無ノ道、人ニ伝ヘラレヌユヘ、強テ名ヅケテ道ト云。名ハ形ト実ニカナフ。然レドモ此無ハ無形ユヘ名ヅケラレネドモ、カナリニ先道ト云ヨリ名ヅケヤウナシ。ユヘニ「字之曰道」トイヘリ。又道トバカリニテハ、云タラズアキタラズ。然レドモ云ヤウナシ、シヤウ事ナシニ名附見レバ、大トナラデハ名ガツケラレヌユヘ、「強為之名曰大」ト云。天地モ此無ノ本体ノ中ニ兼有スヲ見レバ、大トナラデハ、オシテモイハレヌユヘ也。且大ノ上ニ此道一ト処ニ滞リタルモノニアラズ。四方八方不往処ナク、天地中ヨリ天地ノ外ヲ兼ルユヘ、「大曰逝」トイヘリ。コレハ道ノ規模ヲ説也。逝而已ナラズ天地ニ先立、天地終トイヘドモ、此無ノ本体不終ユヘ、「逝曰遠」也。「逝」トバカリニテハ、逝テカヘラズ活落自在ノ妙用ナキカトイヘバ、反復自在ニテ、一年ニテイヘバ去年ノ正月ハ今年ノ正月、一月ニテイヘバ先月ノ朔日ハ又今月ノ朔日トカヘリ、反復ヤマヌユヘ、「遠曰反」ト云。天地万物造化ノ運用、此道ナラヌ事ナキユヘ、「故道大」ト云。道ニ次デハ、陽ノ主大ナルユヘ、「天大」ト云。天ニツギテハ、陰ノ主大ナルユヘ、「地大」ト云。地ニツギテハ、人ノ主大ナルユヘ、「王亦大」ト云。道ト云ト規模定リテ長ケアリ。此無ニハ量モナク規模モハカラレヌユヘ、無ノ域中ニ上文四ツノ次第アリ。道ト天地ニカケ合フ者ハ王者ナリ。然レバ王者ハ重シ、ユヘニ「而王居其一焉」ト云。王者ノ道ハ人ナリ。人ハ地ニ則リ五行ヨリ高下遠近、地ニ背ク事ナラズ、ユヘニ「人法地」ト云。四時二十八宿、天ノ時ニ地従フテ天ニ不背ユヘ、「地法天」ト云。又天ハ道ニ不背、背ケバ造化ヤムユヘ、「天法道」ト云。道ハ如何トイヘバ無ノ自然也。道ハ無ノ自然ノ自在流行ニ法ルユヘ、「道法自然」ト云。「人法地」ヨリ以下ノドウ中ヲ貫クハ自然也。「人法地」以下ノ実ハ皆自然ニ帰ス。

二十六章

「重為軽根云々」：「重為軽根」ハ必然ノ理也。本ホド重ク末ホド軽シ、ヨツテ天下ノ根、国ノ本トナル。人君ハ言行重ク、天下ノ軽ノオモシシヅメトナルユヘ、コレナケレバナラズ。「静為躁君」ハ、冬ノ静ヨリ春夏ノ陽ノ躁ヲ発ス。ヨツテ静ハ動ノ本也。其心不静ト人ノ目ノ不及処見ヘズ、理ノ明ハ静ヨリ発ス。静ニテナキト、動キサハグモノ下知スル事ナラズ。人君ノ言行静ニ人ノ十言云ヲタダ一言ニテ決スヲ云也。「是以聖人云々」：「輜重」ハ、軍ノ時ノ三軍ノ車ハ進ミ、小荷駄車ハ後ニ引サガレリ。小荷駄車ハ食物ヤ何ヤカヤヲツムユヘ重シ。「輜重」ハ小荷駄車ヲ云。聖人ハ万機ノ政ヲサバキ、終日サマザマノ事アレドモ其心ハ常ニ「不離輜重」如ク重ヲ不失。エヨウ栄華モ見ヤリモセズ、物ノ数トセヌガ「雖有栄観云々」也。コレ人君ノ重ヲ貴ム処、コレ其身ヲ重ンジ天下ノ富貴ヲ軽ンズユヘ也。「奈何云々」：ドウシタ事ニテ万乗ノ主ニテアリナガラ、其身ヲ軽ンジ天下ノ富貴ヲ重ンズ了簡違スルゾ。ソレヲ何デ戒ムナレバ、其身ヲ軽ンズト群臣ニ侮ラレ心服セラレズ。我身ハ本、天下ノ富貴ハ末也、ユヘニ「軽則云々」トイヘリ。又イラヌ事ヲサシ出テサハガシキト篤拱而天下平ノ道ヲ失フユヘ「躁則云々」トイヘリ。コレ君トシテ臣ノ位ニ代ルヲ云。

【注記】

「燕処超然」ハ、燕処ノ平生居ル一ト間ニ休息シテ居ルトキノ如ク、心ニ万物ヲハナシ安ンジ何トモ不思意。

二十七章

「善行無轍迹」：誠ノ善行ハ跡モ見ヘズ、形モノコラヌヲ云。ホメ称スベキ跡カタナキヲ「善行無轍迹」ト云也。アリベカカリノ自然ヲ行フテ甚シキ事ナキユヘ、人ノ目カドニ立事ナシ。ユヘニ人ヨリ善行アリト不知也。「善言無瑕謫」モ猥リニ多言スルユヘクズ多シ。コレモ自然ニ従ヒテ猥リニ不発言ユヘ、一言モキズアヤマチナキヲ云也。「善数不籌策」ハ、ヨク謀ヲメグラスハ、ムツカシキ事ヲセズ、物ノ自然ニ従フ順ヲハカリ、逆ヲハカラヌヲ云。譬バ算用ノ達者ハソロバンイラズト云如シ。「善閉云々」：ヨク用心スル者ハジヤウヲオロサネドモ、誰モ盗ム者ナシ。ヨク籠城スル人ハ用心堅固ユヘ、城門ヲ開キ置テモ敵不窺如シ。善約束シテ信アレバ、縄ヲ結ブニ不及ト也。コレマデハ其一理一理ヲ挙テ物ノ性ニ順ヒ、事ノ自然ニ順フヲ説。聖人ハ皆如此ユヘ、ヨク救人也。自然ニ不順ト人ハ救ハレズ。賢人ハ上ニ挙用ヒ、小人ハ下ニ置其所ヲ得セシム。天下ノ人、其器ニ応ジツカフユヘ也。万物モ又同ジユヘニ、「常善云々」。物ノ性ニ従フ

ユヘ「無棄物」也。皆ソレゾレ其所ヲ得、其用ヲ得ル也。「襲明」ハ、カサネ明ラカト云意ニ河上公ハ見タリ。林注ハ「明」ヲオホフト云意。林注ノ方ヨクアタレリ。徳ノ光ヲ外ヘアラハサズ、内ニ明ラカナルヲ云。「和光同塵」ノ意ナリ。ユヘニ自然ヲ知リ、ヨク救人。善人ヲ挙テ不善人ノ師トス。ソレユヘニ「善人者不善人之師」トイヘリ。「不善人者云々」：不善人ヲ不棄カラ、天下ニ棄ルモノナシ。ソレハ不善人ハ善人ノタスケユヘ不棄也。不善人モアレバコソ善人ヲ師トシ、善人アラハレリ。ユヘニ不棄也。此「資」ハ、モトデト云意。「不貴其師云々」：善人ハ不善人ノ師ト云道理ヲ不知ユヘ、善人ヲ師トスル事ヲ不貴、不善人ハ善人ノ資ト云事ヲ不知ユヘ、善人ノ資タル不善人ヲ不愛也。善人ハ不善人ノ師タルヲ貴ミ、不善人ハ善人ノ資タルヲ愛スガ要妙ユヘ、「是謂要妙」トイヘリ。

【注記】

「無縄約而不可解」ハ、ヨク結ブ者ハ、縄ニテククリツケネドモ、オノヅカラ解レズ、約束セズ不盟トモ不解ノ意。

二十八章

「知其雄云々」：此段、不敢天下之先、人ト不争ノ事也。此語、立其一ヲ知リテ其二ヲ守ルト同ジ。一日ニ二十里ヅツ歩ム足ニテ十里ヅツ歩ム意。タヤスク天下ヲトリ、天下ノ人主トナルベキ身ガ棄テ天下ヲ不取、諸侯ノ位ヲ守ルガ、「知其雄守其雌」也。知雄テ行雄ト二ノ手ナシ。守雌ハヒカヘメニシテ奥ノ手アリ。サアレバ、不招不求シテ天下ノ人民信服シ、自然ニココニオチ聚ルユヘ、「為天下谿」トイヘリ。谷ニ水ノ聚ル如キ也。有心有欲ニテハ守其雌事ナラズ。コレハ無心無欲ノ道徳ニテナキト守ラレヌユヘ、「為天下谿、常徳不離」ト云。「常徳不離」ハ、無心無為ノ事也。如此ナレバ欲ナク私ナキ事、嬰児ノ如キユヘ、「復帰嬰児」ト云。無欲無我ノ昔ノ嬰児ニカヘリタルヲ云。カヘリタル意ノ重キヲ「復帰」ト二字熟シ説タリ。天下ノ万事水ノ流ルル如ク自在ニスル身ニテ、タヤスク言行セヌヲ「知其白、守其黒」ト云。如此人ハ天下ノ準則トナルユヘニ「為天下式」ト云。一百ヲ知リタル中ニテ(5)十ナラデハ不言不行人ハ、撰精ク悉ク万事物ノ至当ニアタレリ。ユヘニ「為天下式、常徳不忒」ト云。如此ナレバ、自然ノ変化窮リナキユヘ、無極ニカヘレリ。「知其栄云々」：名誉ヲ好マズ辱ヲ守レバ、自然ト天下ノ人心ヲ得テ天下ノ谷トナレリ。「為天下谷」ハ無心ノ道徳、我ニ不充満バアタハズ。常徳身ニ充足スレバ天ヨリ生ズキナリ、ウブノ天真其ママニテ無飾道徳而已ニナリタル

ヲ「樸」ト云。其樸ヨリ仁義礼智忠孝百行ト分レリ。凡天下ノ仁義礼智忠孝百行ノ道混合シタルガ「樸」也。大樹ノ材木ノ如シ。ソレヲ色色ノ器ニスル如ク、道ノ混合ノ樸ヨリ百行万善出ルガ「樸散則云々」也。此道徳ノ樸散ジテ仁者知者義者勇者ト云類ニナルユヘ、聖人用ヒテ、勇者ハ将軍トシ、仁者ハ執政役トソレゾレ器ニツキ用ユルヲ「聖人云々」也。人人ノ器ニヨリ其ママニ用ユルガ「大制不割」也。上手ノ大工ハ材木ヲキリ削リセズ、ソレゾレノ器ノ用ニカナヘル如ク、賢者ハ賢者ノ位ニヲキ、能者ハ能者ノ職ヲアタヘテ、皆其才能ニヨツテ用ルヲ云ナリ。

【注記】

○一百ヲ知リタル中ニテ[6]

二十九章

「将欲云々」：此段、又治道ヲ説キ、無為ノ裏ヲ説タリ。人主ガ発明ダテ知ニ任セテ、イデト手ニトリ天下ヲ治ントカカレバ、天下ハ治メラレズ。「吾見二其不一レ得已（ノミ）」トヨムベシ。治ムル事ヲ不得也。スベテ此書「取天下」ノ「取」ノ字解シガタシ。河上公ハ「取、治也」ト訓ズ。林註ハ取捨ノ取ニ訓ズ。両意トモニ通ジテ、河上公ヲ是トス。但ココノ「取」ノ字ハ軽ク見ルベシ。「天下神器」ハ、天下ハ神器ニテ無ノ道ノ入レ物也。此無ノ神ト云、無ノ神ヲ入レタ物ガ神器也。ユヘニ自然ニテナキトオサメラレヌユヘ、「不可為也」ト云。サテ、此無ノ神ヲ入レタ物ガ天下自然ニ従ヘバヨシ、背ケバアシシ、過テヨクセントスレバ敗レ、自分ノ流義ヲ立、知力ヲ用ユレバ失フユヘ、「為者敗之云々」ト云。天下神器ユヘ、「万物或行或随云々」ノ変化、時ニ随ヒ運動無限ユヘニ、聖人性命ノ正ニ順ヒ、物ノ自然ニ任セ手際ダテ知恵ダテセヌガ「聖人去甚云々」也。過タル事ヲセズ、性命自然ノ自得ニ任スヲ無為ノ自然トイヘリ。

【注記】

「故物或云々」、甚、奢、泰ノ三ツノ者ハ皆有心ニテ知ヲ用ヒテ有為モノナリ。凡万物ノ変化ハ「或」「或」「或」「或」[7]ト云如ク、其変窮リナキモノユヘ、聖人ハタダ其自然ニ任セ応ジテカツテ己ヨリ為ル事ナク、己ヨリ執ル事ナシ。

「故物或行云々」、歔、音コ、息ヲ吸フ也。吹ハ息ヲ吹出ス也。歔吹ニテ呼吸ノ事ナリ。羸、音ヱイ、ヨハキ也。「隳」ハ、ヤブルナリ。

三十章

「以道佐人主者云々」：用兵武ヲケガスヲ悪ム伊尹傅説ノ類ガ「以道佐人主者」也。天下ヲオドシ服サセントセヌガ「不以兵強天下」也。伐ベキ者モ、兵ハ一旦ノ事、其事終レバ兵ヲヤメ、モトノ無為自然ニカヘルヲ「其事好還」ト云。ソレハ、軍アレバ人民散ジ、田畑アルルユヘ、「師之所処荊棘生ズ」ト云ナリ。大軍シテハ人多ク殺サレテ天地ノ和気ヲヤブルユヘ、「大軍之後必有凶年」ト云。ユヘニ軍ヲヨクスル者ハ伐ベキ国ハ伐、伐シマヘバジキニ軍ヲヤメ弓矢ヲオサムガ「善有果而已」也。何ホド戦テ勝トモ、勝ニ乗ジ長軍セヌガ「不敢以取強」也。一旦敵ニ勝トテ「勿矜云々」也。兵ハ不好、民ノ害ヲ除クバカリユヘ、「果而不得已云々」ト云。物壮ナレバツカルユヘニ、壮ニシトゲヌヲ「果而勿強」ト云也。「不道早已」ハ早ク亡ノ意、ツカレタ事ヲ云。ヤムユヘ亡ブナレバ「已」ニ亡ノ意ヲ含ム。

三十一章

「夫佳兵者云々」：良将ハ人ヲ殺シ国ヲ破ルユヘ、軍ハ「不祥之器」也。ユヘニ此人ヲ悪ム。ソレユヘ有道者ハ此道ニ不居。「君子居則云々」：君子ノ道ハ、常ハ左ヲ貴ム。軍ノトキハ右ヲ貴ム。コレ兵ハ不祥ノ器ニテ君子ノ器トセヌ処也。「不得已云々」：勝タルヲ不悦ガ「恬淡為上」也。一ト手ノ大将ハ左ニ居、惣大将ハ右ニ居ル。軍中ハ喪礼ヲ用ユルハ、殺人事多ケレバ悲ミ、戦勝ハ不悦シテ、カヘツテ喪礼ヲ用ヒテ凱陣ヲ行フユヘニ、軍ハ不得已シテ用ユ也。

三十二章

「道常無名云々」：有形ハ常ニシ守ラレズ。道ハ無ニシテ無形ユヘニ、常ニシテ守ラレ名モツケラレズ、ソレユヘ「道常無名」ト云。無声無形ノ道ヲ形体ニテツツムヲ「樸」ト云。無ノ道徳ヲ人ノ形ニテツツミタルママニテ文飾ナキ道徳ノ山出ヲ「樸」ト云。ユヘニ道徳無形也。無形者ホド小也。樸小ナレドモ此無心ノ道徳ハ天下貴テ賎マズ、此人ヲ天下ノ人臣トスル事ナラズ、其徳人君ノ徳ニテ人臣ノ徳ニアラザルユヘ也。侯王此無ノ道ヲ行ヘバ万物服従スユヘニ「万物将自賓」ト云。ソレハ天地相合バ甘露不求シテ降リ、人無ノ道徳ヲ守リ無為ナレバ、天下ノ万民不令シテ生育シ、天下平等平均ト云。コレ王弼注ノ意ナレドモ、此意ハ本文ノ文義ニカナハズ。無ノ道徳ヲ得テ自然無為ニ従フ目当ハ「天地相合云々」也。天地ハ相合バカリ、相合サヘスレバ甘露降リ、天ヨリ不令ドモ其メグミ民ニオノヅカラ平均也。人主モ無ノ道徳ヲ得テ、

自然ニ従ヒサヘスレバ、独不令シテ人民オサマルト云意。コレ林注ノ意也。林注ノ方ヨク文義ニカナフ。「始制有名」ハ、材木ヲ削リコナスヨリ柱トナリ桷ト名ガツク如ク、道徳ヲキリ分ケ制スルヨリ、知ヲ得、仁ヲ得タル者アリ。コレヲ「始制有名」ト云。始テ官ノ名ヲ立テ高下尊卑立ツ。然ルニ此名ニツクト末バカリヲ慕フテ天下繁文トナリテ根源ヲ知ラズ。天下ハ名ヲ以テ号令政ヲ立レドモ、本ハワスレラレヌユヘニ、名ハヨキカゲンニテ止マネバナラズ。モシ止ヲ不知バ、重箱ノ角ヲ楊枝ニテコソゲルニナレリ。ユヘニ「名亦既有夫亦将云々」トイヘリ。コレニヨツテ道徳ノ人、天下ニアレバ、天下ハ道徳ノ人ニ順フ事、川谷ノ水ノ江海ニ流レコム如シ。ユヘニ「譬道之在天下云々」トイヘリ。

三十三章

「知人者云々」：人ノ善悪ヲ知ルハ易ク、自分ノ是非ヲ知ル事ハ難シ。ユヘニ人ヲ知ルハ知ニテ自知ハ「明」ト云。人ノ仇ニ勝ハ易ク、我私ニ勝ハ難シ。ユヘニ良将ハ多ク賢人ハ寡シ。「勝人者有力云々」：「勝人者」ハ力限アリ。「自勝者」ハ力限ナキ也。「知足者富」ハモトヨリノ富ニ足ヲ知レバ、下地ノ富ヲ不失シテイヨイヨ富也。下地ノ富ニ足ヲ不知シテ、イヨイヨ富ヲ貪レバ、下地ノ富マデ失フト也。「強行者有志」ハ、有志者ニテナキト決テツトメ行ハレズト也。「不失其所者久」ハ、上下貴賤官位官職ノ間、我器量相応ノ宜ヲ知テ不失者ハ、其道長久ニテ不失我器量不相応ノ大任大役ヲウクル其所ニテナキユヘ、久シクタモタヌト也。「死而不亡者寿」ハ、小人ノ死ハ其名其人ギリニテ死トアトカタノコラズ、君子ノ死ハ其身死シテモ世ニ益アリ。人ニ功アレバ其人死シテモ其道万世ニ伝ハリ残レバ、其人死テモ不死ト同前ト也。然ルニ此意老子ノ主トスル処ニアラズ、一本ニ「死而不妄者寿」トアリ。コレニテハ生而不妄トイハネバキコヘズ、此一句、老子中不審ノ語也。

三十四章

「大道汎兮云々」：天人一致ヲ説也。其道左右ニ達シ、天ニモ地ニモ人ニモ万物ニモ存シ、無不至テ一偏ニカタヨラズ、天地万物各性命ヲ得ルハ道ニヨツテ也。天地万物ノ生ズルハ道ヲ性根トシ生ズ。一物モ道ノ方ヨリ拒ミ、コトハリテ不生事ナキユヘ、「万物恃[8]之而生而不辞」トイヘリ。又道ノヲカゲユヘ生ズト知リタルモノナシ。ユヘニ「功成不名有」ト云。万物生育スレドモ道ノシワザト知ルモノナキガ、「愛養万物而不為主」也。カホドノ広大ノ天地万物ヲ生ズレドモ万物ニアタヘ施スバカリニ

テ取奪フ事ナキハ、此道無欲也。此大道一向無欲ニテ此大道ノ器至テ小ト見ユルユヘ、「常無欲可名於小」トイヘリ。然レドモ、万物ノ始終、皆此道ニ従ヒ帰ス。万物ノ始終此大道ニ帰スレドモ、生ズモ死スモカマハズ、此大道ノ中ヲ往来シテモ此大道物ノ数トモセズ、力ヲ不用、劬労ノ見ヘタ事ナク、万物ヲ大道ノ腹中ニ入レ事トモセヌヲ見レバ甚広大也。ユヘニ「万物帰焉、而不為主、可名為大」ト云。此下ニ王弼本ニ「是以聖人終不為大」ノ語アリ。此意ハ、聖人是故ニ大ヲナサズ小ヲナシ、無欲質素常ニ謙退スルユヘ却テヨク大ヲナシ、天下ノ間ニ無並大事業ヲ立ルモ、ヨク小ヲナスユヘト也。コレ上ノ「可名於小」ヲ承タリ。ユヘニ此語ノ下ニ「以其終不自為大、故能成其大」トイヘリ。

【注記】

「大道汎兮云々」、大道ハ係著（ママ）ナク左右ニ一偏セズ、上下左右ニ充満シテ左右上下ニ皆宜キモノナリ。

「衣養」ハ、万物ニ衣服飲食サセテ容レ養フヲ云。

三十五章

「執大象云々」：「大象」ハ無ノ道ノ事也。此無ノ道ヲ執ル人ニハ天下人民不招シテ服従ストナリ。「往而不害云々」：天下ノ人民、此無ノ道ヲ執ル人ニ服従シテ往ケバ皆各所ヲ得セシメ不害ユヘ、天下太平ヲキハムト也。「楽与餌云々」：大象ノ道ハ常人ノ目ニハ見ヘズ。先音楽ト旨キ料理ハ過客モ止リ不覚長坐スレドモ、此大象ノ道ハソレトハアチラコチラニテ、素湯ヲ呑如ク淡トシテ味ナク、コレヲ視キキシテモ音楽料理トハ違ヒ不面白好マシカラズ。ソレユヘ俗人ノ心ニハカッテ合点ユカズ。然レドモ、己ト人ト家国天下ニ用ヒテ、ツキズシテ変化無限トナリ、「不足」「不足」(9)ハ不面白ナリ。

三十六章

「将欲歙之云々」：乱世ノ天下ニハ相手アリ。ソレヲ伐亡ボサネバナラネドモ、タヤスク亡ボサレズ手ニアマリタルトキ、先コレヲ伐オサメントスレバ張テ其心ヲ驕ラセ、弱メントスレバ先其心ヲ見セズ向フヲ強クシ、廃セント思ハバ先向フヲ興シ、奪ハントスレバ先アタヘヲク。如此スレバ、調子ニ乗リ我ヲ不懼無道ツノレリ。ソコデ手モナク亡ブ。又民ハナレ独亡ブヤウニナレリ。コレヲ「微明」ト云。其道微ニシテ其験明ラカ也。ユヘニ「微明」ト云。「柔弱云々」：柔ノ仕方ハ人民従ヒ、剛ノ仕方ハ人民ハナレリ。「魚不可脱於淵云々」：王注ハ、飼フ魚ヲフト淵ヘニガスト二度トリカヘサレヌ、利器ハ利国セント

セバ刑罰ヲ用ヒナトノ意。河上公ハ、魚ノ説ハ王注ト同ジ、「国之利器」以下ハ、兵力刑罰ヲ権臣ノ手ヘカシワタスナ、ソレニテハ魚ヲ淵ヘトリニガス如ク、二度トリカヘサレヌト云意。林注ハ、魚ハ水ニスムモノ、淵ヲ出レバ人ニトラル如ク、人モ無為ノ道ヲ守リ居レバヨシ、利器ヲ人ニ示スト盗賊ノ招トナルト云意。三注トモ本文ノ意ヲ不得。荘子胠篋ノ篇ニ此処ニ似タ章アリテ、郭象ヨク注解ヲ得タリ。此郭注ノ意ニ此処ヲ見ルベシ。郭注ノ意ニ見レバ、魚ハ淵ヲ出レバ不得其所ユヘ人ニトラヘラル、其如ク国ノ一大事ノトキ利器ヲ用ヒテ征伐スルノ類ヲ人ニ見セズ、頭ニテオサメントスレバ向フ知リテ油断セズ。ソレユヘ人ニ其手ハ見セラレヌ、見セテハ魚ノ淵ヲ出タル如クニナルトノ意。此説ヨクカナヘリ。利器ハ此処ニテハ智謀征伐ノ類ヲ云。ヨツテ上文ニ相応ズ。

【注記】

「歙」ハ、オサムトヨム。

三十七章

「道常無為云々」：物ハ変化ス、道ハ不変化。有為ハ有形有心也、道ハ無形ユヘ無為ニシテ自然也、天地万物コレニヨリ生ズユヘ、「而無不為」トイヘリ。コレ即自然也。人ニテイヘバ無心自然ヨリ天機自在変化カギリナキヲ云。人主無為ノ道徳ヲ守レバ人民徳ニ化シ万物オノヅカラ化セントシテ、ソレヨリ漸漸ニ道徳ニヨリ起ルヲ、「化而欲作」ト云。「吾将云々」：賢人ヨリ以下ノ人ハ、手ザシセネバナラヌ処ナルニ手ヲ不出。人民ノオモシニナリ居ルガ「吾将鎮之」也。コレヲ「無名之樸」ト云、仁トモ義トモ何トモ名ノツカヌ処ヲ云。手ヲ出セバ華美繁文ノ弊ニナレリ。「無名之樸云々」：詮ズル処無欲ヲ云。人ノサハガシク動クハ心ノ欲ヨリ也。無欲ナレバ、自然ニ静ニシテシカモ無為也。無心ノ道ヲ以テ天下ノオモシトナレバ、天下ノ性命定レリ。ユヘニ「不欲以静云々」トイヘリ。○「化而欲作」ヲ、河上公ハ、化シテソレカラ民ノ悪シクナル意ニ見タリ。王注ハ、ヨキ事ニ見タリ。林注ハ、天下ノ人民已次第サマザマニ起レドモ、我ハソレヲカマハズ、無為ヲ守リ静ニスト見タリ。三注トモオダヤカナラズ。

注

（1）また寺門氏は、『質疑篇』『蘭洲先生遺稿』の外題は、船曳谷園（一七二四〜一八〇一）の筆跡だと推測する。二書の外題と『蘭州先生老子講義』の外題を比較すると、同筆であることがわかる。船曳谷園は、播磨出身の医者であり、懐徳堂で

学んだ門人の一人でもある。寺門氏は、蘭洲が晩年、中風にかかった際、船曳が治療にあたった可能性が高いと推測する。

（2）湯城吉信「蘭洲遺稿は自筆か？」（第二十二回懐徳堂研究会、二〇一五年十二月六日）。その他、中之島図書館に所蔵される懐徳堂関係資料をまとめた湯城吉信「大阪府立中之島図書館所蔵懐徳堂関係資料目録」（『中国研究集刊』第三十七号、大阪大学中国学会、二〇〇五年）が存在する。

（3）「尚経閣図書記」は、天地が逆に押印されている。

（4）「如」「如」とは、恐らく「予兮若冬渉川」「猶兮若畏四鄰」「儼兮其若容」「渙兮若氷之将釈」「敦兮其若樸」「曠兮其若谷」「混兮其若濁」を指す。「如」と「若」はいずれも「ごとし」の意味である。

（5）原文では「十ヲ知リタル中ニテ」の下に「。」（小さな圏点）がある。書眉（欄外の注記）の「○」（大きな圏点）はこれに対応するものである。このような形式は普通は挿入を示すことが多いが、文脈を鑑み、ここでは「一百ヲ知リタル中ニテ」への訂正を表すものであるとし、本文自体を改めた。

（6）詳細については（5）を参照。

（7）「或」「或」「或」は、具体的には「或行或随」「或歔或吹」「或強或羸」「或挫或隳」を指す。

（8）原文は「特」に見えるが改めた。湯城吉信氏は、「蘭洲遺稿は自筆本か？」において、『非伊編』における「恃」と「特」の混同を、同書が自筆本でない証拠としている。

（9）「不足」「不足」は、具体的には『老子』本文の「視之不足見」「聴之不足聞」を指す。

【附記】本稿を作成するにあたって、湯城吉信氏（大阪府立大学工業高等専門学校教授）から数々のご教示をいただいた。記して感謝申し上げたい。